

外装課題解決の取組み

2022年9月14日

味の素株式会社

今の活動の全体スキーム



経済産業省

農林水産省

国土交通省

国の動向

フィジカルインターネット実現
アクションプラン
(2022~2030年)

総合物流施策大綱
※令和3年6月閣議決定
(2021年度~2025年度)

強固な連携

物流の将来像:フィジカルインターネット
実現に向けて作成したロードマップ

日本の物流施策の道標となる
物流の目指す方向を示すもの

業界団体

製配販連携協議会

日本加工食品卸協会

日本スーパーマーケット協会
全国スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
日本小売業協会

フードサプライチェーンサステナビリティプロジェクト (FSP)

足元課題の解決
リードタイム延長検討

メーカー

加工食品会社の連合による物流諸課題解決プロジェクト
SBM会議・F-LINEプロジェクト(第II期)

Ajinomoto 「持続可能な加工食品物流構築」にむけた当社の取り組み

■行政の動き（総合物流施策大綱、フィジカルインターネット実現ロードマップ）を踏まえ、当社は目指すべき姿をあらためて設定し、取り組みを再整理

大目標：持続可能な加工食品物流の構築

日雑業界含め日本全体へ

ドライバー不足の解消

中目標：スマート物流＜データプラットフォーム構築＞

【強くてしなやかな物流】
～止めない物流～

【担い手にやさしい物流】
～足元課題の解決～

【簡素で滑らかな物流】
～標準化推進～

- 物流費マネジメントの高度化・デジタル化
 - ・ 「ひと山いくら」からの脱却
 - ・ 「見える物流費」へ
 - ・ 物流費タリフの抜本的改定へ
 ⇒改善結果が反映される料金体系へ
- 安定した物流オペレーション
 - ・ BCP対応と当社製品の確実で高品質な配送実現

- 納品リードタイム延長
- 長時間待機撲滅
- 附帯作業撲滅
- ASN検品レス
- 納品期限の緩和
1/3 ⇒ 1/2ルールへ

- 納品伝票電子化
伝票エコシステム構築

- 外装サイズ標準化
外装課題解決プロジェクト
2021年10月始動
- コード体系標準化
GS1標準コード導入

- 外装表示の標準化
味の素社策定
「外装表示ガイドライン」
の普及浸透

味の素社内におけるプロジェクト発足

【社内プロジェクト】外装課題解決プロジェクト（2021年10月立ち上げ）

食品事業本部長

事務局 物流企画部・食品統括部

DFLテーマ取り組み
(Design For Logistics)

| 対象品目 | 取組項目 | メリット |
|----------------------------------|--|--|
| 段ボール箱 一斗缶 | <ul style="list-style-type: none"> 外装サイズ種類の集約化、平面積載率90%以上の達成 貨物高さ制限追求 箱重量上限設定 | <ul style="list-style-type: none"> パレット積載率向上 輸送効率向上 荷役作業効率化 保管スペース有効活用 共同配送促進 |
| オトール PPバンド シュリンク 天面ミシン目 | <ul style="list-style-type: none"> 荷崩れ対象削減 物流倉庫自動化不適合及び荷扱い難外装の削減 プラごみ削減 | <ul style="list-style-type: none"> 破損数削減 自動化⇒省人化 CO2及び廃棄物削減 女性、高齢者対応（働き方改革） |

包装設計のプロセスや商品改訂等の時に必ずDFL観点が検討される仕組みづくりや社内ドキュメント(包材設計ガイドライン)などの整備

GS1コード取り組み

| 対象品目 | 取組項目 | メリット |
|------|------------------------------------|---|
| 全製品 | GS1Japanガイドラインに準拠した「GS1QR」コードの外装印字 | <ul style="list-style-type: none"> 賞味期限データに伴う発着荷主検品作業効率化 データプラットフォームの構築による製配販データ連携の実現 |

関連各事業部、研究所包材開発部門、生産部門、情報システム部門、物流企画部

外装課題解決プロジェクト (Design For Logistics)

最近の改善事例



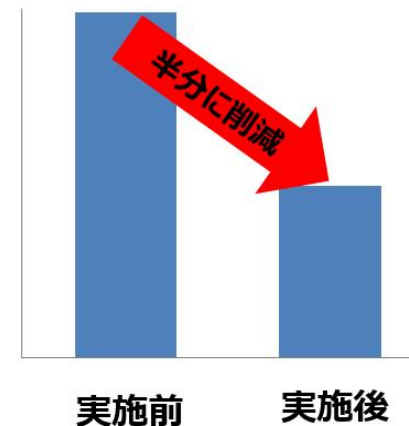
▼ 現行入数(6×5)におけるトラック積載イメージ

▼ 新入数(6×4)におけるトラック積載イメージ

▼ 入数変更による二酸化炭素量排出削減イメージ



CO2排出量



「アミノバイタルゼリー」のケース入数、外装サイズを変更し、輸送効率を大幅に向上させることで、コストダウンを図るとともに環境負荷、物流負荷低減に寄与

最近の改善事例

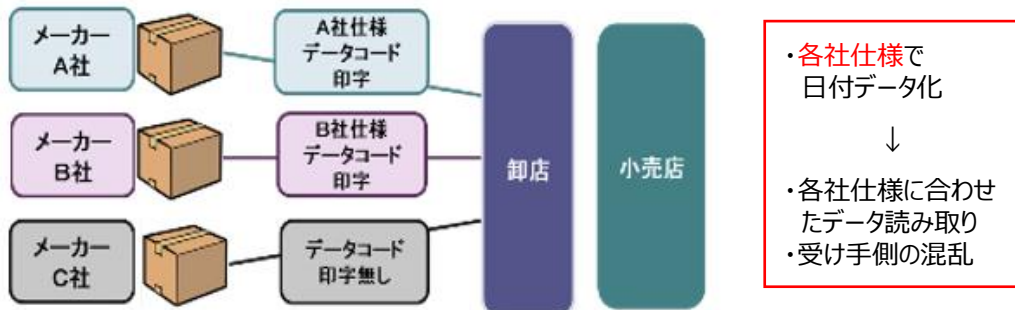
| 品種 | 現行 | | 改訂 | |
|------|------------------|------|------------------|------|
| | 積みつけ (パレット込み) | 面積効率 | 積みつけ (パレット込み) | 面積効率 |
| 180g | 971×971×1376mm | 77.6 | 1074×1074×1201mm | 95.2 |
| 250g | 971×971×1397mm | 77.6 | 1074×1074×1200mm | 95.2 |
| 100g | 1049×1049×1390mm | 87.7 | 1050×1050×1212mm | 91.1 |
| 130g | 1054×1054×1376mm | 90.3 | 1092×1092×1200mm | 93.9 |
| 135g | 1054×1054×1376mm | 90.3 | 1092×1092×1200mm | 93.9 |

- 2段輸送するにあたり、輸送時の荷崩れ防止するため外箱サイズを変更し、平面積載率を改善

外装課題解決プロジェクト（GS1コード取組み）

GS1 QRコードの導入について

現状



2020年9月
GS1 Japan「ケース単位への日付情報等のバーコード表示ガイドライン」発表

今後



当社内推進体制

2020年

検品時の日付確認データ化のニーズがある中、GS1 Japanのガイドライン発表で、「標準化」となる規格が発表されたため、当社商品への導入議論が進んだ

2021年

「持続可能な食品物流の構築」へ向けた取り組みとして社内で承認。
具体的な導入へ「外装サイズ標準化」と合わせプロジェクト立ち上げ決定。
・商品事業部、包材担当部門
生産工場、DX担当部門
物流部門等参加で今後推進

外装課題解決プロジェクト（GS1コード取組み）

プロジェクトでの検討内容

- -GS1QRコードの規格及びロット番号、品質保証の在り方を関係者で確認
- -印字機及び検査機の概算費用の算出
- -社外との連携を模索中（行政連携、実証実験）

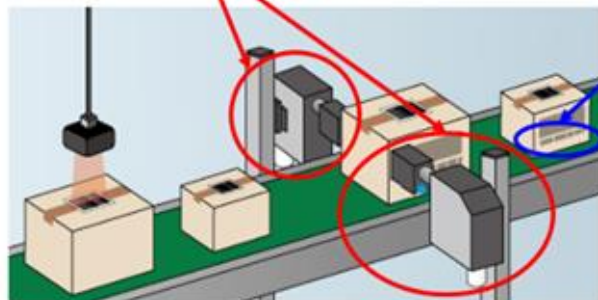
■導入イメージ



■設備概略図

■2ヘッド仕様 = 長手2側面印字可

但し、賞味期限・GS1 QR Code・ケース番号 を1ヘッドで印字する想定



2017.03.05



(01)04912345678911
(11)160510(15)170305
(10)160510

持続可能な加工食品物流構築実現にむけたステップ

